グループホーム　ふぁみりえ

地域密着型サービス評価の自己評価票

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の願いや希望、尊厳等を最大限に尊重し、その人らしさがある人生の継続を支援していくことを理念掲げている。また、地域で暮らし続けることについても理念と共に掲げているケアの10姿勢に則り、支援を行っている。	○	理念と実践が結びつくよう、引き続き日常の支援の場面を捉えて振り返りを行う。新人職員へは研修日誌や毎日のミーティングを通してじっくりと行いたい
2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人研修では必ずホーム長または主任から理念・ケアの10姿勢についての話がある。現任スタッフも日々のケアにおいて理念を念頭において実践している。ユニット会議やケアカンファレンスにおいても理念の共有・統一を図るよう話し合いをしている。	○	新人教育や日々のカンファレンスの徹底、勉強会を通じて更なる理念の実践、共通認識を図る。
3	**○家族や地域への理念の浸透** 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会や運営推進会議、地域行事への参加、ささやかカレーの店、子供達との交流等の取り組みやふぁみりえ通信を発信することで理解してもらえるよう取り組んでいる。地域ネットワーク活動にも常に入居者の皆さんと参加し、日頃から交流を通して認知症の人の理解や支援が深まるように働きかけている		
2．地域との支えあい				
4	**○隣近所とのつきあい** 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買物など、できるだけ近隣の店や道を使い、カレーの店などにご案内したりしており、近辺に顔なじみが増えてきて、いる。地域ネットワークの一員でもあることから、特に老人クラブや顔なじみの方々との関係が深まってきて、日常的におつきあいしている。	○	開かれた、地域に根ざしたグループホームになる為にも、近隣の方々とのお付き合いは大事だと思う。入居者ともっと外へ出て、こちらから少しずつ親交を深めるようにしていきたい。ふぁみりえ内の行事に参加して頂けるよう声を掛ける(もちつき等).
5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域主催のお祭りやふれあい芸能祭、公園清掃、はやめ南人情ネットワークのイベント等機会毎に参加し、地域の方との交流を図っている。また、ふぁみりえやサンフレンズ内での行事に地域の方々も参加していただき交流を図っている。(運営推進会議、もちつき、ふれあい祭等)		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	**○事業所の力を活かした地域貢献** 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域住民ネットワークの世話人、事務局として運営に参画したり、特に認知症高齢者の徘徊SOSネットワークづくりに貢献している。また老人クラブのふれあい芸能祭の実行委員になったり、運営推進会議等で地域住民との情報交換を行ったりしている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1年に1度スタッフ一人ひとりが自己点検を行うこと、それをみんなで話し合うことで日々のケアの見直しにつながるいい機会となっている。改善すべき点も取り組んでいる。	○	改善すべき点のフィードバックを行い、年間計画をたてて改善していきたい
8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、さまざまな報告以外に、入居者本人も参加して意見や要望を話して頂く機会を作り,,参加者から実現に向けてアイデアや意見を頂いている。地域の方も参加した行事についての意見・感想・要望も頂き今後に活かすようにしている。(避難訓練等)また外部評価の項目の一部を実際に運営推進会議の皆さんで点検していただいたり、改善策について意見を頂いたこともある	○	意見を頂いてはいるもののサービス向上に活かすための働きかけが十分でない。年間計画に入れて活かしていけるようにしたい
9	**○市町村との連携** 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	大牟田市との協働による勉強会に参画したり、市役所職員の研修を受け入れたり、またあんしん介護相談員の受け入れや市主催の意見交換会に参加している。また市からの依頼による視察堅守研修など、積極的に受け入れ日頃より情報方交換を行っている		
10	**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設全体で身体拘束廃止委員会の一環として、権利擁護に関する勉強会をしたり、地域包括支援センターとの連携により、新人教育や現任教育の中で、日々の権利擁護及び成年後見制度の学習をしている。また該当者の支援を通して、理解を深めている。	○	勉強会に参加しているものの理解はまだ不十分である。理解が十分出来る様にしていきたい。
11	**○虐待の防止の徹底** 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設全体で組織している身体拘束廃止委員会の活動の一環として虐待防止に関する勉強会を行ったり、新人研修の中で学ぶ機会をつくっている。日々のケアにおいても、尊厳を重視したケアのありかたを場面を捉えて話し合うなどしながら、虐待のないよう努めている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
12	**○契約に関する説明と納得** 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	ホーム長、管理者を中心に入居･退居に関して充分に時間を取って説明を行っている。契約内容に関しての疑問点や不安なことに対しても充分時間を取って説明を行い理解･納得を図っている。また退去の際も退去先や入院後のフォローアップなど対応している		
13	**○運営に関する利用者意見の反映** 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常からご本人の希望や声を重視し、できるだけ意向に添えるように努力している。現実的に難しい場合でもホーム長や管理者と相談し工夫している。また運営推進会議の場で入居者の意見や声を聴く時間をつくり、発言しやすい雰囲気づくりや働きかけを行っている。で意見等を言って下さるようにお願いしている。実際に入居者の意見を行事に取りいれたり、運営推進会議のメンバーの協力を得て実現している。	○	そうであっても、入居者本人からの意見が出ない、出せない状況ではないのか？常に問題意識を持って、スタッフミーティングを行い場面作りを行っていきたい。
14	**○家族等への報告** 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族来家時には必ず近況報告を行うと共に現金出納帳の月ごとの明細書及び領収書をお渡ししている。家族が遠方におられる場合は電話･手紙以外にもメールにて報告を行っている。スタッフの異動についても度々報告を行っている。家族会では、異動の理由や職員体制の課題についても報告し意見を頂いたりしている	○	報告はしているが、異動職員からのきちんとしたご挨拶が出来ていない。これまでのお世話になった気持ちと後任者へ引き継いだ旨をお伝えしていく。またなかなか来家されず、家族会にも参加されない家族には、特に気がけて入居者の最近の様子の写真を添えて手紙にて報告をするようにしていきたい
15	**○運営に関する家族等意見の反映** 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、苦情等言い出せないご家族が多くいると思われる。言える様な関係作りが必要であると捉え、ご家族が来家時に近況報告を行うと共に意見を伺うようにしている。家族会では身近な職員に気軽に話せるようにﾕﾆｯﾄごとのグループトーク形式にしたり、昼食会時に個別に時間をつくるなどしている。また運営推進会議との合同の場を設け、第3者と気軽に話せる場作りをしている。		
16	**○運営に関する職員意見の反映** 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ふぁみりえ会議･リーダー会議･ユニット会議等で意見交換や提案する場を設けている。特にリーダー会議のさまざまな意見を直接運営につなげている。会議の場でなくてもホーム長へ意見や提案を述べたり、少しの時間を見つけてはできるだけコミュニケーションが図り、すぐに実行できる意見提案などは、すぐに取り入れている。		
17	**○柔軟な対応に向けた勤務調整** 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	受診、外出、冠婚葬祭、急変など、入居者や家族の状態や希望にできるだけ添えるように、勤務調整に努めている。	○	しかしながら職員の退職や病欠など、常に十分であるとはいえないため、適切な職員配置、各ﾕﾆｯﾄ間の応援態勢など職員体制の充実に努めたい。
18	**○職員の異動等による影響への配慮** 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人材のバランスや職員動態、ストレスケア等を考えて異動を行ってはいるが、最小限にとどめているつもりでも、開設当初から比べると異動は多くなってきている。入居者と馴染みの深い職員の異動によるダメージを最小限に出来るよう、日頃よりﾕﾆｯﾄを超えて交流を図っている	○	職員の確保は年々難しく、また異動の必要性も増えてきている。しかしながら入居者や家族への対応をよりきめ細やかに行っていきたい

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5．人材の育成と支援				
19	**○人権の尊重** 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員につても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	人権の尊重、平等性・公平性を重視しながら採用を行うよう配慮している。スタッフの個性の発揮や社会参加や自己実現を図れるような機会作りにも重視している。		
20	**○人権教育・啓発活動** 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	特に力を入れている。職員全体研修会で常に東翔会の基本理念である人権の尊重やノーマリゼーションの思想の理解啓発を図ったり、デンマーク研修やさまざまな研修を積極的に職員へ働きかけている。		
21	**○職員を育てる取り組み** 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、現任研修、東翔会リーダー研修等、計画的に目標を設定し進めている。また県が進めている実践者研修の受講、グループホーム協議会の研修、学会や実践報告会などの積極的な発表など、施設外研修にも積極的に参加を促している。年に1回のデンマーク研修派遣は中でも特徴的なものである。さらに介護福祉士や介護支援専門員の資格取得についても対策研修をするなどして機会を設けている。	○	意欲的に取り組んではいるが、今後は年間計画におとしてより計画的に進めていきたい
22	**○同業者との交流を通じた向上** 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や認知症ケア研究会主催の研修や勉強会、大牟田市サービス事業所実践報告会、大牟田市認知症ケアコーディネーター養成講座等に参加することにより意見交換する場や学ぶ機会を作っており、互いに気付きあい、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
23	**○職員のストレス軽減に向けた取り組み** 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	新人教育のほか、研修日誌を通して職員の気付きや悩み、不安などを察知し、コミュニケーションを図っている。ストレスがたまりがちなケアの現場で、出来ないことを出来ないままで終わらせず、常にどうすれば解決できるのか話し合う場を持って取り組んでいる。時に場所を変えて職員間の親睦を図る機会を作ったり、食事や遊びを通して気軽に話せる相手が出来るようなチーム作りを心掛けている。また管理者やリーダーと情報交換を密にし、不安を抱えている職員の変化を見逃さないように努めている。	○	専門分野の講師を招いて職員のストレスケアに関する研修の機会をつくりたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	**○向上心を持って働き続けるための取り組み** 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に1～2回自己点検表をつけてもらい管理者や職員の職務実績や実践課題等の把握に努めている。勉強会や施設内の委員会や実行委員への推薦、資格取得、学会での事例発表等、さまざまな機会をとらえて向上心が持てるような職場環境、研修の場を提供している。	○	職員の向上心の源はさまざまであると思うが、根本は、理念の具現化、実践、チームケアによる「心ふるわす成功体験」や「入居者からの人生の学びを共有できること」ではないかと思う。煩雑なまた決して給与面で十分な評価ではない中で、個々の職員のやりがい感、ケアへの姿勢を育てていけるよう、また向上心を持った職員が多様な研修に参加
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	**○初期に築く本人との信頼関係** 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前から本人、家族を含めなじみ作り、ふぁみりえへの通い、自宅訪問等を入居前に大切なものとして捉えており、本人と話し合う機会を多く作り、関係作り及び本人の悩み、苦しみを受け止めることを心掛けている。		
26	**○初期に築く家族との信頼関係** 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人だけでなく、家族を含めた支援を行うことにしている。理念にも家族への支援を掲げており、家族を含めた支援を実践出来るよう努力している。		
27	**○初期対応の見極めと支援** 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	いかなる利用者・入居者もステージに合わせ、リハビリや訪問看護・かかりつけ医・ケアマネ・看護師と連携し、その人の今のステージごとに対応している。		
28	**○馴染みながらのサービス利用** 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して利用する為には、まず通って頂き、時間と場所の工夫を行いながら少しずつスタッフや場所とのなじみ作りが出来るように努めている。家族とも話し合いをしながら行っている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	**○本人と共に過ごし支えあう関係** 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である入居者のみなさんからたくさんのことを教えて頂いている。喜怒哀楽を共有し生活も共にすることで、スタッフも同居人のように感じている。	○	日々の生活の中で人間として、福祉に携わる者としてたくさんのことを学ばせてもらっている。成長させてもらえる機会を与えて下さっていることに感謝し今後も関係を築いていきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	**○本人を共に支えあう家族との関係** 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に本人の誕生日には一緒にお祝いをしたり、外出・日帰り旅行等にも可能な限り参加頂き、共に支えあうパートナーであると思っている。来家時は必ず近況報告を行ってる。		
31	**○本人と家族のよりよい関係に向けた支援** これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族を含め支援に努めている。しかし、関係が出来ているところと出来ていないところの温度差を感じることがある。家族会・家族介護教室で認知症に対する理解やグループホームの理解を深めて頂けるようにも努めている。	○	認知症によって疎遠になっている家族との関係性が深まるよう、進行・重度化していく病気に対する理解を深めていただけるように努めていく。
32	**○馴染みの人や場との関係継続の支援** 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみある場所へ出掛けたり、以前勤めていた職場の恒例行事や同窓会等なじみのある人や場所との関係が継続出来るように最大限に努めている。	○	一方で限界も感じる。家族・友人・知人の協力が必要。その協力によってより充実出来ると思う。
33	**○利用者同士の関係の支援** 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	不安になっていらっしゃる方に声をかけたり、歩行の際手を引いたり等ご自分なりの力を発揮される一場面として捉えている。	○	
34	**○関係を断ち切らない取り組み** サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了してもこれまで一緒に暮らしてきた・支えてきた本人や家族との関係続いていけるよう、折々の行事への参加の声掛けをさせていただいているが、少しずつ薄れてきているように思える。	○	家族からすれば本人がいないところへは来づらいようである。これまでお世話をさせて頂いた・学ばせてもらったことに感謝し、これまで築き上げた関係が途切れないように偲ぶ会を開催したり、気軽に来て頂けるような雰囲気作りを行っていかなければならない。
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で希望・意向を把握するよう努めている。ご自分で希望が伝えることが出来ない方は、本人視点で考えるようにしている。常に入居者、本人主体を追及している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	**○これまでの暮らしの把握** 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されてからの生活を支援する上で、本人や家族、以前利用していた事業所から情報を集め、人生史・生活歴・生活環境等把握に努めている。グループホームで暮らしてもこれまでと変わりない生活が出来るよう支援を行っている。		
37	**○暮らしの現状の把握** 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々記録、ケアプランの他にその日の本人の様子等スタッフ間で情報・現状の共有をすることに努めている。状況に応じてケアカンファレンスを開いたり、24時間シートを導入しより細かく状況を把握するように努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	**○チームでつくる利用者本位の介護計画** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日々暮らしていく中で本人からの訴え・希望を反映させると共に、家族からも意見・要望を反映し作成している。また状況に応じてケアカンファレンスを行い、そこで出た意見もプランの中に盛り込むようにしている。主治医・他職種からの意見も反映させている。	○	ケアカンファレンスの内容をもっと盛り込んでいく。少ない人数でもその方について話し合ったことは記録に残し、作成時に活用していく。
39	**○現状に即した介護計画の見直し** 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度ケアプランの評価を行い更新を行っているが、状況変化が著しい時はケアカンファレンスを行い新たにケアプランの追加を行っている。	○	しかし、その場の申し送り事項として対応しているのが現状でプラン化までには至っていない。統一したケアを行うには、ケアプランの作成は重要不可欠。担当スタッフを中心に対応・作成する。
40	**○個別の記録と実践への反映** 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・状態像については記録にしっかりと落としているが、ケアプランの実践としての記録や気づき・発見が今後のケアプラン作成に反映させれるようチェックを入れる等の記録は出来ていない。	○	担当スタッフだけでなく、ユニットスタッフ全員がその方に対して統一したケアを行っていく為にも、ケアプランの内容を周知・実践し、しっかりとしたモニタリングを行い次のプランに活かすようにしていく。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
41	**○事業所の多機能性を活かした支援** 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出・外泊の支援や家族が宿泊されること、受診対応等本人・家族のその時の要望にお応え出来る様最大限支援をしている。またデイサービスとしての活用や医療的な面でのケアが必要な場合は訪問看護に入って頂いている。成年後見人制度については地域包括支援センターに協力を頂いている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	**○地域資源との協働** 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	徘徊ネットワーク、はやめ南人情ネットワーク、民生委員、ボランティア、あんしん介護相談員、運営推進会議の参加メンバー等地域の方々との協力を得ている。小学生・中学生・幼稚園児等子供たちとも世代間交流の場を得て支援している。		
43	**○他のサービスの活用支援** 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて医療的ケアには訪問看護に入ってもらったり、成年後見人制度について地域包括支援センターのスタッフとの連携している。		
44	**○地域包括支援センターとの協働** 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人や家族から相談があったら、地域包括支援センターのスタッフから権利擁護や成年後見人制度についての話をして頂いており、その後の手続き等も行って頂いている。スタッフの知識を得るために勉強会を開いてもらっている。		
45	**○かかりつけ医の受診支援** 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を取りながら支援を行っている。往診や緊急時・定期的受診以外にも本人や家族に了解を得て健康チェックと評して受診を行い、その結果をDrや看護師から結果を報告して頂いている。		
46	**○認知症の専門医等の受診支援** 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門性のある医師との信頼関係を築きながら情報提供を行い、診断やアドバイスを頂いている。施設の母体病院に神経内科が開設し認知症専門医が常駐したこともあり、これまで以上に診断・治療が受けられるようになった。	○	
47	**○看護職との協働** 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現場スタッフに看護師がいるのでなじみ・信頼関係を築きながら健康管理を行っている。介護スタッフも状態変化が起こった時はすぐに報告し指示を仰いでいる。知識や技術について看護師が講師となり勉強会を開いて学ぶ機会も得ている。他にも訪問看護・ケア局の看護師とも協力を得ている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	**○早期退院に向けた医療機関との協働** 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先へはなるべくスタッフが足を運び、本人の様子、状態がどのようにあるのか把握することはもちろん、本人の不安・ダメージが少しでもなくなるように、なじみの関係が途切れないように努めている。また、センター方式のＣ－１－２シートに本人像を記入し、入院先のスタッフへ渡してご本人がどんな人なのかを理解して頂くように努めている。	○	本人支援はもちろん、そばについている家族の負担が軽減出来る様、こちらでも出来ることは協力していく。
49	**○重度化や終末期に向けた方針の共有** 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化しつつある入居者に対してはかかりつけ医やホーム長からムンテラを行ってもらっている。重度化・見取り支援に対しての書面もあり、状態変化が起こった際は必要に応じてムンテラを行い、その都度書面にサインを頂くようにしている。		
50	**○重度化や終末期に向けたチームでの支援** 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームにて「出来ること・出来ないこと」を見極めながら、かかりつけ医とも連携を図り、必要に応じては往診に来ていただいたりと連携を図っている。		
51	**○住み替え時の協働によるダメージの防止** 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅での様子を本人や家族から情報を得たり、自宅訪問を行っている。通って頂く事で、少しずつスタッフや場所になじみの関係が出来ているように思われる。また、グループホームから病院等へ移られる際は少しでもなじみのあるものを持っていったり、出来るだけスタッフが顔を出すようにしている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**				
52	**○プライバシーの確保の徹底** 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳・プライドを傷つけないような対応や声かけを意識して行っているものの、時として声かけが乱暴になったり表情にもそれが表れているように思われる。その場面においてスタッフへ声をかけたり、ユニット会議の議題として挙げ、スタッフ全員が意識統一を図るようにしている。	○	人生の先輩であることを忘れず、敬う気持ちをもって接するように努めていく。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	**○利用者の希望の表出や自己決定の支援** 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の暮らしにおいて、自己決定が出来るような場面作り・声かけを行っているほか、自己意思・願い・希望を最大限に取り入れようと努めている。家族会や運営推進会議の場でも希望を表出できる場を提供している。	○	入居者主体の生活になるようにスタッフ全員で意識統一を図る。ご自分で希望や意見が言えない方についても本人の立場に添って考えていく必要がある。
54	**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者主体であることを常に頭に置いて、一人ひとりの希望に沿った一日を支援している。	○	時として入居者主体であることを忘れスタッフペースになっている。「寄り合い」をもっと活用し、その人は一日何をしたいのか、希望・意見を聞く場を作り一日が充実出来る支援をしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	**○身だしなみやおしゃれの支援** その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日着る服を選んで頂いたり、外出時はお化粧やおしゃれな服を着て頂くなど支援を行っている。理容・美容院は本人・家族の希望により行きつけのお店があれば、可能なかぎりお連れ出来るようにしている。		
56	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1度、夕食のメニュー決めから買い物・調理・片付けを入居者のみなさんと手分けをして行っている。その方の持つ残存能力を活かせるよう心掛けている。	○	みんなと手分けして行っているとはいえ、決まった入居者が買い物や調理を行うことが多くなってきている。全ての入居者が何かしらに参加できるようアプローチをしていく。また、食事の場での会話が少ないのでいろいろな話題を出しながら楽しい食卓にしたい。
57	**○本人の嗜好の支援** 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	これまで続けてきた嗜好がふぁみりえでも続けられるよう支援しており、それぞれの好みに合わせ工夫を行い提供を行っている。お酒を飲まれる方はスタッフが晩酌の相手をすることもある。		
58	**○気持よい排泄の支援** 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用しパターンの把握をすること、日中・夜間帯でオムツ類を使い分けで失敗や失禁の軽減・防止に努めている。本人の様子・サインを見てトイレ誘導を行っている。	○	失禁が減るようにケアカンファレンスを行う。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	**○入浴を楽しむことができる支援** 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴出来るよう準備をしており、希望時に入浴出来るよう支援している。しょうぶ湯やゆず湯等季節の応じたお風呂も楽しみの1つとして行っている。入浴を拒否される方に対しては声かけを工夫して行っている。	○	その日の状況やスタッフの都合で入浴が出来ない日が多々ある。入居者主体を念頭に支援していく。清潔保持に努めていく。拒否される方の声かけ・アプローチもスタッフ全員で考えていく。
60	**○安眠や休息の支援** 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人のペースやリズム、様子・表情を見て入床の声かけを行っている。温度や湿度・照明・音にも気を配り安眠されるよう努めている。周囲の物音で眠れないこともある場合は、居室以外でも休める場所を提供している。	○	左記、室内環境を整える以外にも、日中の過ごし方で心地良い疲労感を感じて休んで頂くことも必要ではないかと思う。天気の良い日は布団を干す等清潔にも気を配る。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	**○役割、楽しみごと、気晴らしの支援** 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴を尊重しつつ、日々の生活に活かしながら、力の発揮の場面を引き出すよう支援している。		
62	**○お金の所持や使うことの支援** 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することにより安心される方には家族から又は預かり金からお渡しはしているが、最近は管理が難しくなってきている現実がある(紛失や異食等)。お金を所持されていなくても、預かり金の中から買い物が出来るように支援している。	○	一人ひとりの方の力に応じた支援の継続とご家族ともよく話し合いを持つようにしていく。
63	**○日常的な外出支援** 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に沿って買い物・花見等の外出、歩行困難になられた方も車イスを使用して外出や散歩等最大限支援を行っている。しかし、その日のスタッフの状況や天候・入居者本人の体調等で希望に応じられない場合もある。	○	別のユニットスタッフとも連携を図りながら出来るだけ希望が叶えられるよう支援していきたい。
64	**○普段行けない場所への外出支援** 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常会話や運営推進会議での発言をくみ取り、外出・旅行計画を立て実行している。可能な限りご家族にも参加頂き、楽しい機会を作っている。本人とご家族のみで行かれる事も支援している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	**○電話や手紙の支援** 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもご家族へ電話や手紙が書けるように支援はしているが、スタッフからの近況・状態報告の電話やメールが多く、最近は本人からの希望がないこともあり出来ていない。	○	自らの希望だけでなく、スタッフからのアプローチが必要。
66	**○家族や馴染みの人の訪問支援** 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	地域に開かれたグループホームとして家族や友人・なじみの人達が気軽に来て頂き、本人とゆっくり過ごせるような時間・空間作りを心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	**○身体拘束をしないケアの実践** 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内に身体拘束廃止委員会を設置している。教育委員会を通じて身体拘束に対しての勉強会を実施し、スタッフ一人ひとりが理解を深めていくと共に、普段のケアに活かせるように努めている。		
68	**○鍵をかけないケアの実践** 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、自由にどこからでも出入りできるような状態となっている。夜間は入居者自ら居室の鍵を掛けられるが、スタッフが掛けることはない。		
69	**○利用者の安全確認** 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ふぁみりえのケアの10か条に掲げているアクト・オブ・バランスを重視し、入居者のプライバシーに配慮しつつ様子や所在確認し安全を心掛けている。スタッフ間でも所在について声を掛け合い連携を図っている。		
70	**○注意の必要な物品の保管・管理** 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物(刃物類・洗剤類)は使用後、所定の場所に保管している。入居者が使われる場合も見守りを行っている。転倒になりうる物も予見しながら環境整備を行っている。	○	危険だからとなんでも失くすのではなく、本人にとって大事なものまで奪ってはないだろうか？アクト・オブ・バランスに則り、考える必要がある。
71	**○事故防止のための取り組み** 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者一人ひとりの状態に合わせたリスクマネジメントを行っている。各マニュアルや勉強会を通して学ぶ機会も作っている。実際に事故が起こった後にユニット会議やケアカンファレンスを開き、今後の対策や防止に活かしている。	○	事故が起こる時は続けて起こることが多いので、スタッフ一人ひとりの意識を高くすることと連携の強化。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	**○急変や事故発生時の備え** 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設全体・各部署での勉強会を開催し、応急手当やＡＥＤの取り扱い方を学び訓練している。マニュアルも作成し急変時に備えている。		定期的な勉強会を開きスタッフ一人ひとりが知識を深めていく。
73	**○災害対策** 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、入居者・スタッフ・地域住民・家族・消防を含め避難訓練を行っており、消防署職員の元、初期消火の仕方も教わっている。。毎月15日には防災ミーティングを実施し、火災の原理から避難方法を教わり・シュミレーションをしたり日々のケアに繋げるようにしている。		
74	**○リスク対応に関する家族等との話し合い** 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	現状から起こりうる事故・リスクについて定期的に家族と連絡を行い、アクト・オブ・バランスの点からも家族に相談して何が一番大切かを考えながら支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	**○体調変化の早期発見と対応** 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化や異変に気づいた時は、すぐに看護師・ホーム長に報告を行い、速やかにかかりつけ医に連絡し受診・往診を行っている。スタッフ全員が情報の共有を図っている。	○	情報の共有と伝達をしっかりと行う。状態変化の早期発見に努める。
76	**○服薬支援** 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬情書、看護師から説明・副作用等の知識を得ている。薬の変更や臨時処方等も看護師から報告を受けている。	○	薬に対する理解はまだまだ低いと思う。スタッフ一人ひとり理解を深めていく必要がある。
77	**○便秘の予防と対応** 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の日数や食事・水分をどれぐらい摂取されているのか把握している。食生活では野菜ジュースや乳製品を提供し摂取頂いている。入居者ごとに下剤が処方され看護師と連携して服用して頂いている。	○	身体を動かす働きかけは出来ていない。散歩等軽い運動を心がけていきたい。食べ物についても工夫が必要である。スタッフ間の情報伝達・共有も強化していきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	**○口腔内の清潔保持** 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を見てセルフ・ヘルプを行っている。セルフ・ヘルプの人もその時々で拒否されることもあるので、声かけの工夫が必要である。	○	口腔状態によっては誤嚥の危険性や食事が入らない原因になっているので、チェックが必要である。声かけ・タイミング等工夫を図るようにする。かかりつけの歯科医に受診や往診で口腔内をチェックしてもらえるよう看護師を通じてお願いする。
79	**○栄養摂取や水分確保の支援** 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いて食事・水分量の把握に努めており、その人に合った提供の仕方(刻み・ミキサー・おにぎり等)も行っている。不足がちの方には無理のないようアプローチしており、食事が入らない場合は栄養補助食も活用している。	○	チェック表の抜けがあるのでしっかりと記入し把握に努める。味付け・盛り付けにも工夫を図る。
80	**○感染症予防** 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染対策委員会より各感染症においてマニュアルがあり、それに則って対応を行うようになっている。インフルエンザに対してはスタッフ・入居者全員予防接種をおこなっている。普段の生活の中では手洗い・うがいを励行している。	○	スタッフが感染源や媒体とならないように排泄ケアや汚物処理の際は必ず手袋を使用する。普段から健康管理に気をつける。
81	**○食材の管理** 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前・食事前にはアルコールで手指・テーブルを除菌している。調理後は使用したまな板・フキンはハイターで消毒をしている。古くなった食材は使用しないよう廃棄処分をしている。	○	キッチン周りの清潔・整頓に努めると共に、食中毒に対する知識も深めていく。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**				
82	**○安心して出入りできる玄関まわりの工夫** 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には花壇を作ったり、玄関ホールには入居者作品を飾ったり、昔なじみの物を置いたり、中に入ると懐かしさや安心感が持てるような工夫を図っている。	○	玄関は家の顔であるので、スタッフ一人ひとり掃除をこまめに行うことや臭いにも気を配っていく。
83	**○居心地のよい共用空間づくり** 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室よりもホールで過ごされていることが多く、居心地のよい場所になっていると思われる。不快の思われる音には注意を図り、テーブルに季節の花を飾ったり、気候のいい時には窓を開け自然の風を取り込んだり、日々の暮らしの様子を写真に収めたものを飾ってみたり工夫している。掃除にも取り組みキレイにすることでの居心地のよさにも努めている。	○	これからも入居者にとって不快な音(テレビの音量・足音・話し声・笑い声・家事の音)に注意する。座り心地のよいイスの導入。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	**○共用空間における一人ひとりの居場所づくり** 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール食卓以外にもソファーやイスを置いたり、冬場は小居間にコタツを置く等ホールのどこにいても一人で過ごせるよう工夫している。	○	入居者がいつでも使えるようにしている小居間はいつも片付いていない状態であるので、環境整理・整頓を行い利用出来るように努めていく。
85	**○居心地よく過ごせる居室の配慮** 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談してなじみの家具や小物等持ってきて頂いたり、家族や友人との写真を飾ったりと自身にとって安心・居心地のよい居室作りを行っているが、人によっては殺風景さも感じる。	○	家族ともよく相談しなじみの物を置くほかに、物を置くだけでなく家族や友人・別入居者・スタッフとお茶を飲んだり出来るような、本人にとって居心地・住み心地のよい居室にしていきたい。
86	**○換気・空調の配慮** 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	悪天候以外は窓を開けて換気を行っている。臭い対策では消臭剤を活用したり、お香を焚く・アロマのエッセンシャルオイルでスプレーを作り消臭・芳香と工夫している。小まめに空調調整も行っている。	○	臭いに気づかなくなっていることがあるので、スタッフ同士で確認することや、生ゴミやオムツ類を溜めないよう速やかに捨てに行く等気を配る。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	**○身体機能を活かした安全な環境づくり** 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりをつけたり、歩行の妨げにならないように気をつけたり工夫はしているが、スタッフが過度に介助している場合もある。	○	一人ひとりが持っている身体能力の発揮に心掛けることにより、過度な介助に注意を図る。
88	**○わかる力を活かした環境づくり** 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入口には表札を掲げたり、トイレには張り紙をする等、本人の持っておられる力を活かせるようにしている。		
89	**○建物の外周りや空間の活用** 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日・暖かい日にはテラスにテーブルを出して食事やお茶を飲んだりすることや、中庭へ気軽に出て外の景色や花々が見れるようベンチを置いて楽しむようにしている。畑の野菜が収穫時期を迎えると一緒に収穫家族会を行ったり年末は餅つきを行い地域交流の場としても活用している。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム　ふぁみりえ

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)